

# ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

## 平成25年度 畜産物価格及び関連対策 について

平成23年度 会員概況調査より

平成24年度 監事・役職員研修会

酪政連活動報告



酪農トピックス／MILK JAPAN in 山陰 開催される(大阪)ほか  
グループ活動紹介／飛騨酪農乳用牛群検定組合  
監査室だより／セクハラ・パワハラと監査  
日本酪農見て歩紀（鹿児島県霧島市 霧島第一牧場）  
全酪連会報 読者アンケート 〈ご協力をお願い〉



3

2013 March No.570



全国酪農業協同組合連合会

平成25年度

# 畜産物価格及び関連対策 について

表1 加工原料乳生産者補給金単価及び限度数量

|       | 24年度      | 25年度      |
|-------|-----------|-----------|
| 補給金単価 | 12.20円/kg | 12.55円/kg |
| 限度数量  | 183万t     | 181万t     |

表2 指定食肉の安定価格

|    |        | 24年度  | 25年度  |
|----|--------|-------|-------|
| 牛肉 | 安定上位価格 | 1,060 | 1,070 |
|    | 安定基準価格 | 815   | 825   |

●加工原料乳生産者補給金単価及び限度数量（表1）  
加工原料乳の生産者補給金単価は、飼料費の高騰31銭、家族労働費の上昇8銭、乳牛償却費7銭などの単価引き上げ要素と、子牛価格の販売価格上昇15銭、自己資本利子の値下がり3銭などによる生産コスト減

## 平成25年度畜産物価格等

1月25日、自民党にて開催された農林部会・畜産・酪農対策小委員会の合同部会に続いて、農林水産省にて行われた食料・農業・農村政策審議会の生産分科会・畜産物価格等部会での協議を経て、平成25年度の畜産物価格等及び畜産物価格関連対策が発表されました。

少要因とを差引し、トータルで35銭の引き上げとなる1kg当たり12円55銭となりました。

一方、限度数量については、今年度の183万tに対して10万tほど未達となる見込みですが、来年度の乳製品需要を見込み、2万tの減少となる181万tとなりました。

## ●牛肉の安定価格（表2）

牛肉の安定価格は、配合飼料価格の高騰を主な要因として、平成24年度の1kg当たり1,060円から10円上がり1,070円、安定基準価格も1kg当たり815円から10円上がり825円となりました。

## ●指定肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格（表3）

肉用子牛の保証基準価格と合理化目標価格も、牛肉の安定価格と同様に、配合飼料価格の高騰を主な要因として、すべての価格が引き上げとなりました。

表3 肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

|         |          | 24年度    | 25年度    |
|---------|----------|---------|---------|
| 保証基準価格  | 黒毛和種     | 310,000 | 320,000 |
|         | 褐毛和種     | 285,000 | 292,000 |
|         | その他の肉専用種 | 204,000 | 209,000 |
|         | 乳用種      | 116,000 | 122,000 |
|         | 交雑種      | 181,000 | 188,000 |
| 合理化目標価格 | 黒毛和種     | 268,000 | 273,000 |
|         | 褐毛和種     | 247,000 | 251,000 |
|         | その他の肉専用種 | 142,000 | 144,000 |
|         | 乳用種      | 83,000  | 86,000  |
|         | 交雑種      | 138,000 | 142,000 |

## 平成25年度関連対策の概要 （酪農関係抜粋）

●チーズ対策の助成金単価の引き上げ  
：88億円  
チーズ向け生乳を対象にチーズ生産と酪農経営の安定が図られるよう助成金を交付。

●酪農ヘルパー事業の拡充…4億円

酪農家の傷病時利用の円滑化等の支援に加え、酪農ヘルパーを活用した生産基盤の強化、利用組合の強化など地域の自主的な取組を支援。

●牛群検定システム高度化支援事業の拡充…4億円

牛群検定組合による生乳の品質改善や生産性向上のための取組の支援に加え、遺伝子情報を利用した改良体制を強化。

●酪農生産基盤回復緊急支援事業（都府県対策）の創設…10億円

生産基盤回復計画に基づき、地域における乳牛の維持・継承、飼養管理技術の改善、乳製品製造技術の向上等の取組を行う酪農家集団に対し補助。

●加工原料乳確保緊急対策事業の創設…5億円

生産者の計画を踏まえて加工原料乳の確保に向けた取組を緊急に行う指定団体に対し加工原料乳1kg当たり30銭相当を交付。

参考

〔予備費及び補正予算〕

●飼料自給力強化支援事業の創設…〔補正〕131億円

放牧施設・採草地やTMRセン

ターの改修等に緊急的に実施するとともに、国産稲わら等国産粗飼料の利用を拡大する取組に対して支援。

●配合飼料価格安定制度の財源確保への支援…〔予備費〕148億円

異常補填基金への積み増し。

●畜産経営力向上緊急支援リース事業…〔補正〕250億円

畜産経営における生産性や飼料自給率向上、飼料生産受託組織等の経営高度化及び配合飼料工場における飼料原料多角化に必要な機械のリース方式による導入を支援。

●畜産農家等資金対策…〔予備費〕134億円〔補正〕19億円

配合飼料価格の高騰等に対応して、農林漁業セーフティネット資金（運転資金）を無担保・無保証人化。負債の償還が困難な経営に対する借換え資金の融通（畜産資金）の継続。急速に悪化した経営が一括借換（2年間無利子）を行う資金の融通（新畜特資金）の創設。

●生乳需給基盤強化対策事業の創設…〔補正〕15億円

牛乳乳製品の底堅い需要の確保に向けて、生産者・乳業者が一体となって行う新商品・技術の開発、新市場の開拓などの取組を支援。

# 新規就農 経営委譲 を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページから入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

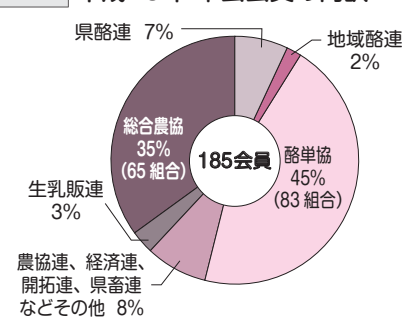
右下リンク

新規就農情報〔社酪農ヘルパー全国協会〕  
新規就農情報〔全国農業会議所〕

# 平成23年度 会員概況調査より

## 1 本会の会員概況(対象:図1は全会員、図2は酪単協、総合農協)

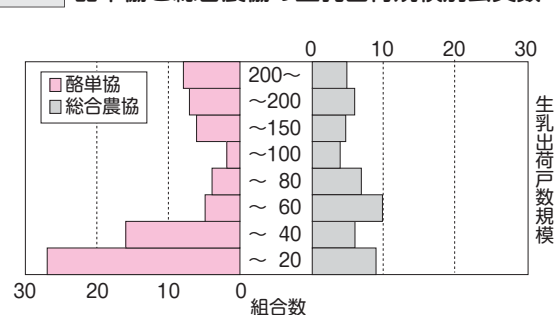
図1 平成23年 本会会員の内訳



### 解説

図1は平成23年10月時点での本会会員の内訳をまとめたものである。これを見ると県酪、地域酪連、酪単協が約55%、総合農協が約35%、各生乳販連、農協連などが残り約10%を占めている。

図2 酪単協と総合農協の生乳出荷規模別会員数



### 解説

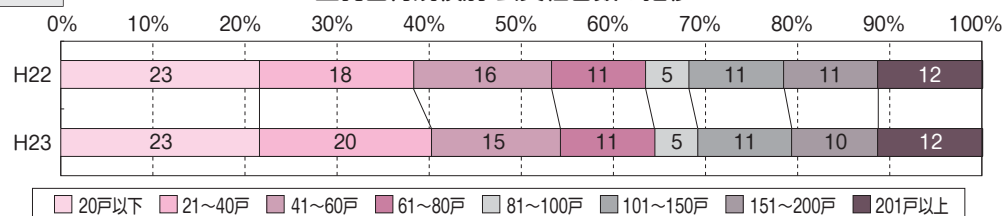
図2では、本会会員の8割を占める酪単協と総合農協の生乳出荷規模別会員数を示した。(提出・記入のあった酪単協75組合、総合農協52組合にて集計)酪単協は生乳出荷戸数が2極化しており、また40戸以下の組合が6割近くを占めている。総合農協は酪単協と比較すると規模が分散していることが分かる。

## 2 生乳出荷規模別 酪農概況(対象:酪単協、地域酪連、総合農協)

表1 生乳出荷規模別 酪農概況

| 項 目      | 調査組合数 |     | 1 組合当たりの平均酪農家戸数(戸) |       |       | 1 組合当たりの平均乳牛飼養頭数(頭) |       |        |       |        | 1 組合当たりの年間出荷乳量(t) |         |        |
|----------|-------|-----|--------------------|-------|-------|---------------------|-------|--------|-------|--------|-------------------|---------|--------|
| 生乳出荷戸数   | H22   | H23 | H22                | H23   | 増減    | H22                 |       | H23    |       | 増減     | H22               | H23     | 増減     |
|          |       |     |                    |       |       | うち未経産               | うち未経産 | うち未経産  | うち未経産 |        |                   |         |        |
| 20戸以下    | 23    | 23  | 11.2               | 11.0  | △0.2  | 747                 | 214   | 741    | 192   | △6.0   | 4,459             | 4,621   | 161    |
| 21～40戸   | 18    | 20  | 31.3               | 30.6  | △0.6  | 1,876               | 549   | 1,903  | 527   | 27.5   | 11,667            | 11,586  | △81    |
| 41～60戸   | 16    | 15  | 50.4               | 51.0  | 0.6   | 4,066               | 1,408 | 4,643  | 1,822 | 576.3  | 22,249            | 23,556  | 1,307  |
| 61～80戸   | 11    | 11  | 70.9               | 70.2  | △0.8  | 6,818               | 2,583 | 7,289  | 2,802 | 470.9  | 35,091            | 36,257  | 1,166  |
| 81～100戸  | 5     | 5   | 90.4               | 89.6  | △0.8  | 8,151               | 3,641 | 8,771  | 4,013 | 620.0  | 36,570            | 37,466  | 896    |
| 101～150戸 | 11    | 11  | 121.1              | 120.3 | △0.8  | 9,546               | 3,262 | 9,323  | 3,082 | △225.5 | 50,414            | 48,897  | △1,516 |
| 151～200戸 | 11    | 10  | 176.4              | 171.5 | △5.0  | 13,219              | 4,763 | 13,513 | 4,976 | 294.1  | 68,933            | 69,179  | 245    |
| 201戸以上   | 12    | 12  | 369.4              | 354.2 | △15.3 | 26,648              | 8,873 | 26,370 | 8,745 | △277.9 | 140,548           | 137,903 | △2,645 |
| 全 体      | 107   | 107 | 92.6               | 89.0  | △3.6  | 7,495               | 2,605 | 7,504  | 2,633 | 9.0    | 39,596            | 38,897  | △699   |
|          |       |     |                    |       | 96.1% |                     |       |        |       | 100.1% |                   |         | 98.2%  |

図3 生乳出荷規模別 会員組合数の推移



### 解説

表1及び図3は生乳出荷戸数別で見た、1組合当たりの概況(酪農家戸数、飼養頭数、年間出荷乳量)を示した。(平成22年、23年双方の数値が使用可能な会員を対象としたため、152組合中107組合で集計)酪農家戸数は前年比96.1%となり、畜産統計(平成24年2月1日現在)飼養戸数の前年比95.7%と近似した数値になった。戸数の減少により、集乳出荷戸数区分が前年と異なる組合があり、他の結果にバラつきが生じた。1組合あたりの飼養頭数は、昨年同様、未経産の増加により前年比100.1%と前年を上回ったものの、成牛は漸減しており年間出荷乳量にも影響が出ている。

本会では、会員酪農協における組織・事業の概要を把握することにより、事業運営における問題点を明確にし、その改善を図り、体質強化に資することを目的として会員概況調査を実施しております。

この度、平成23年度の調査結果がまとまりましたのでご報告します。なお、データは、各会員より提出された「会員概況調査票」の数値を使用し、集計を行っています。

### 3 支所別飼養規模 (対象: 酪単協、地域酪連、総合農協)

表2

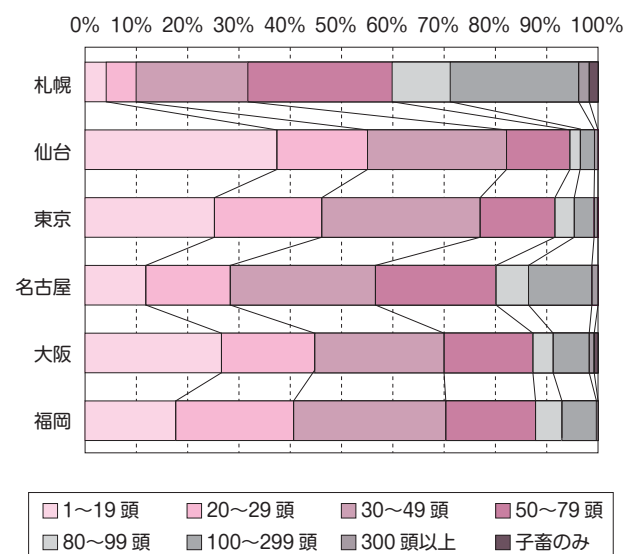
支所別飼養規模

(単位: 戸)

| 規 模      | 札幌    | 仙台    | 東京    | 名古屋 | 大阪    | 福岡    |
|----------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|
| 1～19頭    | 148   | 662   | 592   | 86  | 370   | 197   |
| 20～29頭   | 205   | 315   | 483   | 122 | 247   | 252   |
| 30～49頭   | 743   | 478   | 724   | 209 | 347   | 320   |
| 50～79頭   | 977   | 224   | 345   | 172 | 239   | 192   |
| 80～99頭   | 389   | 40    | 74    | 48  | 55    | 58    |
| 100～299頭 | 865   | 53    | 105   | 89  | 96    | 71    |
| 300頭以上   | 83    | 5     | 16    | 12  | 12    | 6     |
| 子畜のみ     | 56    | 3     | 0     | 0   | 14    | 0     |
| 合計       | 3,466 | 1,780 | 2,339 | 738 | 1,380 | 1,096 |

図4

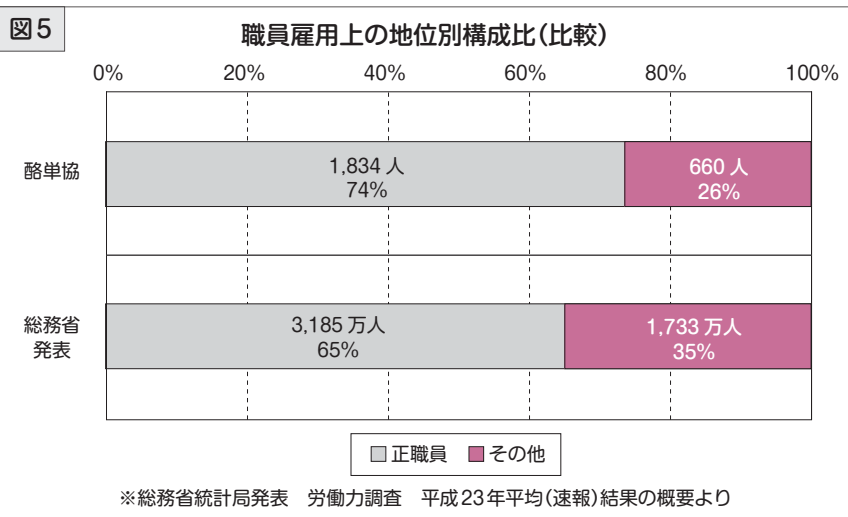
支所別飼養規模



#### 解説

表2及び図4では、本会支所別の飼養規模別酪農家戸数を示した。(152組合中、提出・記入のあった128組合にて集計)  
札幌支所管内は中～大規模であるのに対し、名古屋支所管内を除く都府県は50頭以下の小～中規模の酪農家が7～8割を占めている。  
名古屋支所管内はどの規模も比較的均等に分布している。

### 4 酪単協における職員の内訳 (対象: 酪単協)

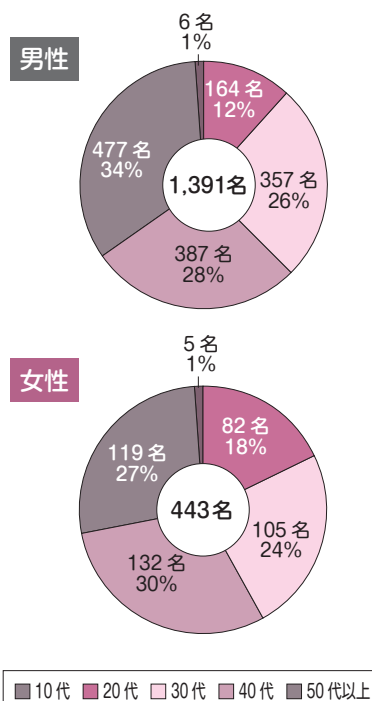


#### 解説

図5、6は酪単協における職員雇用上地位別構成比及び年齢別職員数を示した。(83組合中、提出・記入のあった72組合にて集計)  
図5を見ると、酪単協の正職員は7割以上を占め、正規雇用が多いことから、適格な業務研修等により職務に精通した正職員が多いことが伺える。図6で、40代以上が半数以上を占めていることから、職務に精通した職員が多いとの見方もできる一方、早くから若手職員の教育に力を入れる必要があることが想定された。

図6

酪単協における性別・年齢別の正職員割合

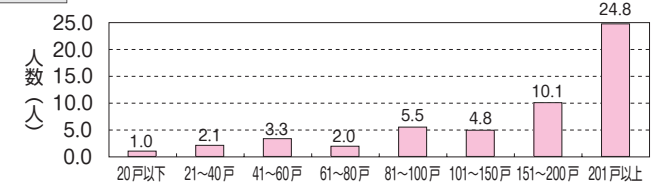


## 5 酪単協における指導担当職員の在籍状況(対象:酪単協)

表3 酪単協における指導担当職員の在籍状況

|          | 全体     | 指導担当者のいる組合 |       | 1組合当たりの<br>指導担当職員数(人) |
|----------|--------|------------|-------|-----------------------|
|          | 集計組合数① | 組合数②       | 比率②／① |                       |
| 20戸以下    | 25     | 4          | 16%   | 1.0                   |
| 21～40戸   | 15     | 12         | 80%   | 2.1                   |
| 41～60戸   | 5      | 3          | 60%   | 3.3                   |
| 61～80戸   | 4      | 1          | 25%   | 2.0                   |
| 81～100戸  | 2      | 2          | 100%  | 5.5                   |
| 101～150戸 | 6      | 6          | 100%  | 4.8                   |
| 151～200戸 | 7      | 7          | 100%  | 10.1                  |
| 201戸以上   | 8      | 8          | 100%  | 24.8                  |
| 全体       | 72     | 43         | 60%   | 8.1                   |

図7 生乳出荷規模別 1組合当たりの指導担当職員数



### 解説

表3及び図7は酪単協の1組合当たりの指導担当職員の在籍状況を生乳出荷規模別で示した。(83組合中、提出・記入のあった72組合にて集計) 81戸以上になると指導担当職員は100%となるが、小～中規模の組合は在籍していない組合もある事が分かる。指導担当職員数は組合規模におおよそ比例して増加することが示された。

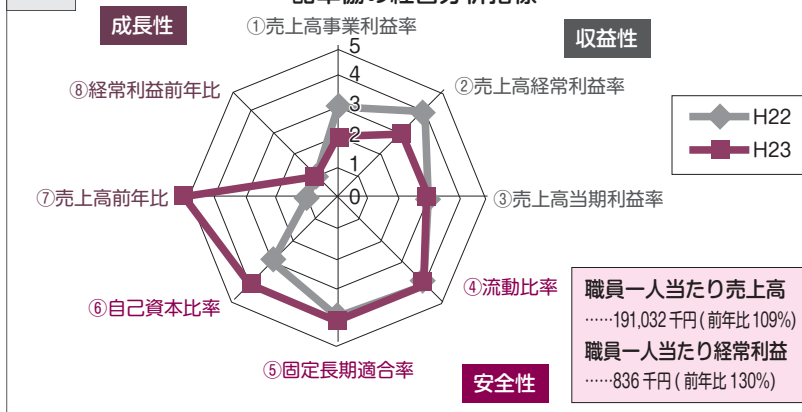
## 6 酪単協における経営指標(対象:酪単協)

表4

経営指標評価表

| 経営指標                                  | 5段階評価   |           |          |          |        |
|---------------------------------------|---------|-----------|----------|----------|--------|
|                                       | 1       | 2         | 3        | 4        | 5      |
| ①売上高事業利益率(%)<br>(事業利益÷売上高×100)        | △1.0%未満 | △1.0～0.0% | 0.0～1.0% | 1.0～2.0% | 2.0%以上 |
| ②売上高経常利益率(%)<br>(経常利益÷売上高×100)        | △1.0%未満 | △1.0～0.0% | 0.0～1.0% | 1.0～2.0% | 2.0%以上 |
| ③売上高当期利益率(%)<br>(当期純利益÷売上高×100)       | △1.0%未満 | △1.0～0.0% | 0.0～1.0% | 1.0～2.0% | 2.0%以上 |
| ④流動比率(%)<br>(流動資産÷売上高×100)            | 80%未満   | 80～100%   | 100～120% | 120～150% | 150%以上 |
| ⑤固定長期適合率(%)<br>{固定資産÷(自己資本+固定負債)×100} | 120%超   | 120～100%  | 100～80%  | 80～60%   | 60%以下  |
| ⑥自己資本比率(%)<br>(自己資本÷純資本×100)          | 10%未満   | 10～20%    | 20～30%   | 30～40%   | 40%以上  |
| ⑦売上高前年比(%)<br>(当期売上高÷前期売上高×100)       | 95%未満   | 95～100%   | 100～105% | 105～110% | 110%以上 |
| ⑧経常利益前年比(%)<br>(当期経常利益÷前期経常利益×100)    | 50%未満   | 50～100%   | 100～150% | 150～200% | 200%以上 |

図8 酪単協の経営分析指標



### 解説

図8は、酪単協の経営指標を分析したものである。(酪単協83組合中60組合で集計) 成長性、収益性、安全性から8つの経営指標を5段階で評価してチャート図にしたものであり、面の広がりや広がりの程度と年度ごとの推移で判断する。面が大きく広がっているほど良い(5段階評価は表4参照)。  
自己資本が高いため2年連続で安全性指標が高い結果となっている。23年度は売上高が前年比110%を超えているが、東北地域で震災の影響による経常利益減により全体では低くなっている(東北を除く経常利益前年比は100.6%)。

## 7 最後に

この度、調査にご協力いただいた会員・関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。会員概況調査においては、会員組合から提出される調査票が多いほど、より正確なデータが解析できます。全国の本会会員の動向を定期的に報告させていただくために、今後とも本調査へのご協力をお願いいたします。

平成24年度

# 監事・役職員研修会

2月7日(木)～8日(金)、宮城県の「ホテル松島大観荘」において、平成24年度監事・役職員研修会を開催しました。当研修会は全国の会員組合の監事・役職員を対象に毎年開催しており、会員酪農協・関係団体及び本会合わせて計70名の参加となりました。



農水省生産局 鎌田係長

研修会1日目には、農林水産省生産局畜産部畜産企画課 鎌田智晶係長より「**25年度予算新規就農支援対策について**」と題して講演がありました。農水省が主体となる24年度補助事業の内容と25年度から新規で行われる支援事業について説明していただきました。本会が実施主体候補者として応募している補助事業「畜産経営力向上緊急支援リース事業」についても話がありましたが、要綱の発表が2月中旬であり、講演時点(2月7日)では、今後のスケジュールは未定との説明でした。確

定次第、別途ご案内させていただきます。



福島県酪 岡統括部長

後半には福島県酪農業協同組合 岡正宏統括部長より「**東日本大震災並びに東電原発事故による福島県酪農の経過と現状**」と題し、地震発生当時の状況から始まり、原乳の出荷制限や乳牛の移動制限などの原発事故被害状況を説明していただきました。当時の牛舎写真も「出すかどうか迷ったが、当時の状況を見ていたくことも必要」と見せて頂き、今後の糧になる話を聞くことができました。復興に向けた取り組みとし



(社)中央酪農会議 並木参与

て、24年から始動した復興牧場「ミネロファーム」と同様な牧場を、浜通り・中通りで各1箇所計画しているとの話を伺うことができました。また、牧草地の除染は1/3しか進んでいないため、引き続き除染活動に取り組んでいく、と力強く前向きに説明していただきました。

そして、研修会2日目には社団法人中央酪農会議 並木健二参与より「**わが国酪農の課題とその対応**」と題して講演がありました。平成24年度の生乳生産量は久しぶりの増産ではあるものの一過性に過ぎず、酪農家戸数・飼養頭数の減少という負の連鎖に直面しており、国内の酪農産業が空洞化する恐れがあると懸念されていました。その中で、持続可能な酪農経営の構築のためには、経営者の高齢化と後継者不足の解消であると言及され、「今後は似たもの同



質疑応答の様子

士の共同経営だけでなく、補完関係の共同経営も検討していく必要がある。そして後継者も雇用者から選ぶ時代」と話されていました。

本会では、会員組合の機能強化の1つとして、このような会員組合の監事・役職員を対象とした研修会を開催しています。今回集計したアンケート結果をもとに、会員の皆様により参加しやすく、必要とされる内容の研修会を今後とも開催してまいりますので、ぜひご出席いただきますようよろしくお願い致します。

なお、当研修会の内容についてのご質問・また資料請求のご希望などがありましたら、全酪連指導・企画部(03-5931-8003)もしくは各支所指導組織課までお問い合わせください。



## 飛騨酪農乳用牛群検定組合

## 牛群検定で酪農経営の改善を図る



今月号では、高山市新宮町の飛騨酪農乳用牛群検定組合の活動をご紹介します。今回は飛騨酪農乳用牛群検定組合（馬瀬口弘志組合長）にお話を伺いました。

## 検定組合の概要

当組合の酪農家は年々減って30戸となっています。しかし、当組合の酪農家は優秀な酪農家ばかりであり、今後離脱農家は少ないと思われますが、何とか現状維持していきたいと考えています。また、当組合の酪農家は丸となって協力し合っているのが強みだと自負しています。検定立会は、組合のルーチンワークをこなしながら組合職員6名が受け持つて実施しています。

目の回るような忙しさの中、組合員の減少に歯止めをかけたい、良質な生乳生産をすることで酪農家が豊かになって欲しいと念じて検定員は日夜取り組んでいます。

## 牛群検定は「良質乳生産の強力な武器」

食の安全・安心が叫ばれる今、生乳の品質管理を徹底させることが消費者の信頼を得る基本です。そのために検定成績表に示される体細胞数、バルク乳情報などのデータをチェックしながら管内の乳

## 平成24年度事業

- 4月 全酪連酪農セミナー 2012報告会 後編  
飛騨酪農乳用牛群検定組合通常総会
- 5月 研修会 青年部ニュースレター 日高氏  
「酪農経営について(経営シュミレーション)」
- 6月 研修会 全酪連 成田技術顧問  
「農場によるバーンミーティング・牧場の検討会」
- 7月 牛舎屋根への石灰塗布で暑熱対策
- 8月 飛騨酪農乳用牛群検定組合夏季交流会  
「飛騨酪農 夏まつり」
- 9月 後代検定娘牛生産調整・牛群検定推進ブロック会議報告会
- 10月 研修会 米国の粗飼料情勢について  
「平成24年度全酪連粗飼料事情米国視察研修報告会」
- 11月 酪農家による酪農家のための勉強会  
「海外種雄牛情報と選定方法」家畜改良事業団
- 12月 酪農家による酪農家のための勉強会  
「農場によるバーンミーティング・牧場の検討会」
- 1月 酪農家による酪農家のための勉強会  
「バルク乳モニタリングに基づく乳房炎コントロール」
- 2月 酪農家による酪農家のための勉強会  
「飼料高騰時代を乗り切る酪農経営」 阿部 亮氏
- 3月 酪農家による酪農家のための勉強会  
「自給飼料増産への道」(仮)

## 検定組合の活動

質改善を図ってきました。それを裏付けるのが管内の牛群検定実施率です。農家率で96・7%、検定牛率で98・5%と高い普及率を示し、組合を挙げての真剣な取り組みがうかがえます。多くの手間隙とお金をかけた検定記録、これを有効活用しなければ勿体ない話です。

今後ますます乳質が問われる状況下、当組合では「良質乳生産の強力な武器」として牛群検定成績を活用していきたいと考えています。

酪農仲間、検定仲間を減らさないために、当組合では、酪農家がそろって牛群検定を受けて「酪農家による酪農家のための勉強会」を実施することを活動の中心に置いています。

お互いの検定成績表を持ち寄って、データをチェックし合うことで自群の改善点等が見えてきます。さらに自群の牛群検定記録を分析することで、自らの

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| グループ名   | 飛騨酪農乳用牛群検定組合                            |
| 組 合 長   | 馬瀬口 弘志                                  |
| 住 所・電 話 | 高山市新宮町3369番（飛騨酪農協内）<br>TEL 0577-32-0208 |
| 酪農家戸数   | 30戸                                     |
| 検定農家数   | 29戸                                     |
| 加入農家率   | 96.7%                                   |
| 経産牛頭数   | 1,301頭                                  |
| 検定牛頭数   | 1,282頭                                  |
| 加入経産率   | 98.5%                                   |
| 自動登録農家  | 27戸                                     |
| 専任検定員   | 6名                                      |



牛舎屋根への石灰塗布作業



勉強会風景



◀ 成田技術顧問による  
研修会



酪農経営の改善が図れ、これが仲間同士での切磋琢磨につながると考えています。

また、当組合では定期的な勉強会の開催とは別に、研修会の開催や研修会で学んだ優良事例（牛舎環境、暑熱対策）等にも積極的に取り組んでいます。

こうした行動はこれ以上酪農仲間を減らさないために、酪農家同士の励まし合いが必要だと考えた結果であり、「仲間づくり」を大切にした取り組み姿勢が強く感じられました。

### 今後の取り組み

現在検定戸数は29戸、内A・T検定実施農家は15戸で、平成25年4月にはA・T検定農家は17戸の予定です。今後さらにA・T検定法の推進を図るべく事業展開していくつもりです。

また、食品の安全性の裏付けとなる牛群検定を経営に活かしながら、コスト削減など酪農経営の重要な課題にも対応できるよう取り組みたいと考えています。さらに、検定員に対する検定日報の記入

の義務付けにより、ポジティブリストの記入、搾乳手順、衛生環境の改善等を図っています。

今後は酪農家の皆さんの意見を取り入れながら、検定組合の自己満足ではなく、酪農家の皆さんが満足できるような活動をさらに推進していく覚悟です。

大変お忙しい中、活動内容について語っていただき心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

# セクハラ・パワーハラと

監査

某高校運動部顧問教師の「体罰」による生徒の自殺、また、某競技日本代表チーム監督の「力」による指導に対する選手からの告発など、スポーツにおける「体罰」が今、大きな問題となっています。直接的な暴力だけでなく、言葉の暴力があったことも明らかになっています。企業組織においても、リストラ対象者を退職に追いやる「追い出し部屋」が大企業に広く存在することがマスコミに取り上げられ、話題になっています。

「体罰」も「追い出し部屋」も、教師と生徒、指導者と選手、上司と部下といった「パワーの差」を背景に、力のある者が力のない者に「精神的な苦痛」を与える(時には直接的に暴力をふるう)という意味で「パワーハラスメント」と言っているのではないのでしょうか。また、金メダリストの某元選手による準強姦事件が現在係争中ですが、この事件などは「セクシュアルハラスメント」の究極の一例と言えるかもしれません。

今回は、職場におけるセクハラ・パワーハラと監査について考えてみたいと思います。

## ハラスメントとは

ハラスメント (Harassment) とは、行為者の意図にかかわらず、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与える発言・行動のことです。

職場におけるセクシュアルハラスメントは、男女雇用機会均等法で『職場において行われる性的な言動に対するその雇

用する労働者の対応により当該労働者がその労働条件につき不利益を受け、又は当該性的な言動により当該労働者の就業環境が害されること』と定義されています。同法は事業主にに対し、体制整備等の雇用管理上必要な措置を講ずることを求めています。

一方、職場におけるパワーハラスメントは、厚生労働省の「職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議ワーキング

グループ」によると、『同じ職場に働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの優位性(※)を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいう。(※上司から部下に行われるものだけでなく、先輩・後輩間や同僚間などの様々な優位性を背景に行われるものも含まれる。』と定義されています。

セクシュアルハラスメントは、その対策が叫ばれ始めてすでに20年以上経っています。平成9年の男女雇用機会均等法改正で禁止事項が盛り込まれ、平成19年改正ではその範囲が拡大されました。

これに対し、パワーハラスメントは、近年、非常に問題視されるようになってきたもので、都道府県労働局への相談件数も年々増加の傾向にあるようですが、まだ法令の整備がなされていません。厚生労働省では、「職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議」と同会議のワーキンググループを平成23年7月に立ち上げ、現状の取組の必要性、予防・解決すべき行為、取組のあり方などについて議論を重ね、平成24年3月には、「職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けた提言」を取りまとめたところです。

## 何がハラスメントになるのか

職場におけるセクシュアルハラスメントは、職場において行われる労働者の意に反する「性的な言動」に起因するもの



です。「性的な言動」とは、

### 1. 性的な内容の発言

性的な事実関係を尋ねること、性的な内容の情報(噂)を意図的に流布すること、性的な冗談やからかい、食事やデートへの執拗な誘い、個人的な性的体験談を話すことなど

### 2. 性的な行動

性的な関係を強要すること、必要なく身体へ接触すること、わいせつ図画を配布・掲示すること、強制わいせつ行為、強姦など

を指すとされ、女性が女性に、男性が男性に対して行う場合も含むものとされています。

また、職場のパワーハラスメントについて、先の円卓会議ワーキンググループは、例えば次のような行為のことを指すとしています。

1. 暴行・傷害(身体的な攻撃)
2. 脅迫・名誉毀損・侮辱・ひどい暴言

(精神的な攻撃)

3. 隔離・仲間外し・無視(人間関係からの切り離し)
4. 業務上明らかに不要なことや遂行不可能なことの強制、仕事の妨害(過大な要求)
5. 業務上の合理性なく、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じることや仕事を与えないこと(過小な要求)
6. 私的なことに過度に立ち入ること(個の侵害)

## ハラスメントへの対応

職場におけるセクシュアルハラスメントを防止するために事業主が雇用管理上講ずべき措置については、厚生労働大臣の指針により次の9項目が定められています。

1. 事業主の方針の明確化及びその周知・啓発
- ① セクハラの内容、あつてはならない旨の方針の明確化と周知・啓発



- ② 行為者への厳正な対処方針、内容の規定化と周知・啓発

2. 相談(苦情を含む)に応じ、適切に対応するために必要な体制の整備
- ③ 相談窓口の設置

- ④ 相談に対する適切な対応

3. 職場におけるセクシュアルハラスメントに係る事後の迅速かつ適切な対応

- ⑤ 事実関係の迅速かつ正確な確認

- ⑥ 当事者に対する適正な措置の実施

- ⑦ 再発防止措置の実施

4. 1～3までの措置と併せて講ずべき措置

- ⑧ 当事者等のプライバシー保護のための措置の実施と周知

- ⑨ 相談、協力等を理由に不利益な取扱いを行ってはならない旨の定めと周知・啓発

また、円卓会議ワーキンググループによると、職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けた企業や労働組合の主な取組の例と、取り組む際の留意点については次のとおりです。

### 「予防するために」

#### ● トップのメッセージ

組織のトップが、職場のパワーハラスメントは職場からなくすべきであることを明確に示す。

#### ● ルールを決める

就業規則に関係規定を設ける、労使協定を締結する。予防・解決についての方針やガイドラインを作成する。

- 実態を把握する  
従業員アンケートを実施する。

- 教育する  
研修を実施する。

#### ● 周知する

組織の方針や取組について周知・啓発を実施する。

### 「解決するために」

- 相談や解決の場を設置する

企業内・外に相談窓口を設置する、職場の対応責任者を決める。外部専門家と連携する。

#### ● 再発を防止する

行為者に対する再発防止研修を行う。

## 組織に生ずる法的責任

ハラスメントが発生した場合に組織に生ずる法的責任は、大きく分けて、民事上の責任と刑事上の責任がありますが、組織として特に気を付けなければならないのは、民事上の責任——損害賠償請求の問題です。一般的には、「使用者責任(民法第715条)」、「不法行為責任(民法第709条)」、「就業環境調整義務違反(民法第415条)」が問われることとなります。

## 監査の役割

監査では、経営者が、セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの防止対策を講じているか、また、発生したときの対応の仕組みや制度を整備している

かを見ることが必要です。しかし、セクシュアルハラスメントもパワーハラスメントも、多くが閉鎖的環境の中に存在し、また、酒席に係り存在したりするものであり、総合的には組織風土が大きく影響しています。したがって、組織内の制度や対策を万全にしたとしても、表面化していないリスクを察知することは大変困難であるのが現状です。

組織として、いかにして普段からセクシュアルハラスメント・パワーハラスメントになり得る要素を認識し、それをなくす行動をしておくか、そして、いかにして組織風土を健全なものにしておくか、これらのことが非常に重要であり、経営者のそのような行動を促すことも監査の役割と言えます。

### (参考文献)

- 「JA常勤監事2012/9第12号」平成24年度全国JA常勤監事研修会講演録 企業におけるハラスメントの現状と監事の役割(山田・尾崎法律事務所弁護士菅谷貴子)
- 「セクシュアルハラスメント対策に取り組む事業主の方へ」厚生労働省  
<http://www.nhlw.go.jp/general/seido/koyou/danjokinrou/kiyou01.html>
- 「みんなでなくそう」職場のパワーハラスメント あかるとい職場応援団「厚生労働省  
<http://www.no-pawahara.nhlw.go.jp/>
- 「セクハラ・パワハラ」の対策と労務監査」首都圏中央社労士事務所 労務監査クリニック  
<http://www.cyuunou4864.com/category/1580443.html>

札幌支所発

## 平成24年度乳用育成牛委託販売研究会 研修会開催

平成25年1月25日(金)から26日(土)にかけて、乳用育成牛委託販売研究会による平成24年度研修会が、北海道野付郡別海町にて開かれ、当日は北海道内の預託農家、農協関係者等41名が参加しました。参加者は中春別農業協同組合共和育成牧場、全酪連中春別育成センター、標津町預託農家の酒井牧場、長澤牧場を視察したのち、中標津町小湊削蹄所の小湊

和宏代表を招いてPDD（趾乳頭腫症）対策についての研修会を開きました。研修会では、①上下牧時の防疫の徹底 ②感染牛の治療の徹底 ③環境を清潔に保つことが重要とお話がありました。

全酪連では今後もこのような研修を通じ、府県よりお預かりしている育成牛の管理技術のより一層の向上に努めていきたいと思っています。（T.K）



▲ 視察風景



▲ 全酪連育成センター

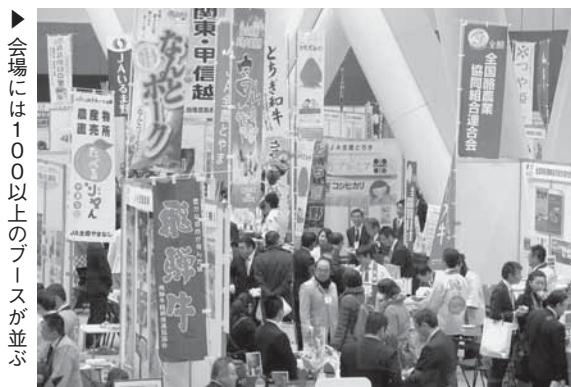
本所発

## 第7回 JAグループ国産農畜産物商談会にて 本会乳製品を紹介！

2月19日(火)～20日(水)に東京国際フォーラムにおいてJA全農、JAバンク、JA全中主催による第7回JAグループ国産農畜産物商談会が開催されました。この商談会は全国のJAグループ・関連団体・生産者等が野菜・果物・米・畜産物・加工品等地域特色溢れた国産農畜産物を紹介する機会であり、7回目

を迎える今回は150団体が出展し、生産者と市場関係者の情報交換の場となりました。

本会も毎年ブースを出展しており、ブースを訪れる人が途切れないほどの大盛況でした。酪農家シリーズ商品を始めとする乳製品をPRさせていただき、今後の販路発展につながる良いPRができました。（K.S）



会場には100以上のブースが並ぶ



◀ 酪農家シリーズを含む  
本会乳製品



▲ 本会ブースは大盛況

名古屋  
支所発

## 岐阜県酪農青年女性会議酪農発表会 —「聞いて、学んで、儲かる酪農塾」—

2月8日(金)、岐阜県美濃市(中濃総合庁舎)において岐阜県酪農青年女性会議(大井幸男委員長)主催の酪農発表会が開催されました。発表会には、酪農家・組合役職員、県関係者など約100名の参加があり、岐阜県畜産協会の酪農スキルアップセミナー「耕畜連携と飼料用米利用の戦略(講師・臼井節雄氏)」も同時開催されました。

意見体験部門で美濃酪連・小塩和也さんが「和也の恩返し」と題して、今後、自分が親となり自分の体



▲ 大井委員長挨拶

験を通し両親に少しでも恩返しすることが自分の成長であり、酪農へのやり甲斐であることを発表しました。岐阜県代表として3月に開催される中部大会での活躍が期待される発表会になり、会場からも大きな拍手が送



▲ 会場風景

られました。

また、岐阜県酪農青年女性会議として「牛乳・乳製品の消費拡大」の意識向上を図るため、岐阜県産の生乳を使用したお菓子工場で作ったスイーツ等の試食会も行われました。

酪農発表会と酪農スキルアップセミナー、そして牛乳・乳製品の消費拡大のための乳製品紹介など有意義な一日となりました。

(O.M)

名古屋  
支所発

## ミルクカップ杯に集まれ！ —「畜産フェア」—

2月11日(月)(祝日)、岐阜県の笠松競馬場で開催された「畜産フェア」において、岐阜県酪農農業協同組合連合会(馬瀬口弘志代表理事長)がブースを出展し、牛乳の試飲を行い県産牛乳をPRしました。

この催しは岐阜県酪農農業協同組合連合会が牛乳・乳製品の消費拡大と畜産振興の一環として開催される「ミルクカップ杯」に協賛しており、岐阜県

酪農青年女性会議(大井幸男委員長)が、「ミルクカップ杯に集まれ!」と呼びかけ、多くの酪友との交流を図るため、毎年このイベントに参加しています。

当日は晴天にも恵まれ、競馬観戦・畜産フェアに多くの酪友が集い、交流が図れた有意義な一日となりました。

(O.M)



牛乳試飲 ▲▶



大阪  
支所発

## MILK JAPAN in 山陰 開催される

2月2日(土)に、松江市くにびきメッセにおいて大山乳業農協とJA全農しまね主催の「MILK JAPAN山陰」が2600余名の一般消費者の参加を得て、開催されました。この消費拡大イベントは中酪のMILK JAPANの一環で県単位で開催されていましたが、両県が協力して一つの催事を盛り上げることとなりました。

この催事のメインは、冬の消費拡大の手段として「寒いときには牛乳を食べよう」と銘打ってタレントの杉浦太陽さんを招き、料理実演を行って牛乳の消費拡大を訴えながら、会場を埋め尽くした家族連れ



▲ 杉浦太陽料理講習



▲ 主催者挨拶

ミルク鍋試食 ▶



◀ 手作りバターに挑戦

に牛乳の良さや家庭での役割を軽妙に話されています。杉浦さんの料理は抽選で30名様に振る舞われました。大山乳業農協酪農女性部も「牛乳鍋」の試食を提供し、長蛇の列が出来ていました。

会場では大勢の親子がバターの手作りに挑戦したり、県内の牛乳乳製品の販売コーナーが設けられ、又、地元料理学校の生徒が牛乳を素材に使用したみるくカレーやチーズを利用したチーズケーキ等が販売され、好評でした。

キッズコーナーでは、キャラクターの塗絵、チャレンジコートや乳搾り体験、大人向けには骨密度測定等が行われ、終日楽しめた催しとなりました。(S.T)

大阪  
支所発

## 山口県酪農青年女性会議主催の第11回「酪農語る多会」開催

2月14日(土)、山口県酪農青年女性会議主催の第11回「酪農語る多会」が県農林総合技術センター(美祢市)にて会員・関係者50余名が参加して盛大に開催されました。主催者挨拶に立った林浩太郎委員長は「政権交代があり、アベノミクスと騒がれている中で円安の流れとなり、飼料が高騰し厳しさが増している。J-milkでは今年度の生乳生産は減産見通しと発表されている。厳しい時こそ支えあい、



会員集合

力を合わせ乗り越えていかなければ」と会員の結束を呼びかけました。

研修会は、昨年の西日本酪農発表大会で意見・体験の部で代表となった大山乳業農協の山下敏子さんが「がんじょしてみよう」と題し意見を発表しました。西日本大会に出席出来なかった会員農家の皆さんに向け、山下牧場の苦労話や家族の協力があって今の経営が営まれていることを切々と話され、出席者も自分の体験等に共通点を見出したのか納得顔で聞き入っていました。

その後、酪農乳業協会の牛乳料理の実演紹介が行われ、料理を囲みながらテーブル毎に酪農談義が交わされ、続いて、消費拡大活動の事例報告(大山乳業・山口県酪農乳業協会)が行われて研修会が終了しました。(S.T)



◀ 牛乳料理実演



▲ 山下さん講演



▲ 林委員長挨拶

福岡  
支所発

## 牛乳で日本を元気にすっど！ どっさい学ばや 牛乳のよかところ

— 九州酪農青年女性会議 平成24年度指導者研修会 —

去る1月30日(水)～31日(木)、宮崎市「宮崎観光ホテル」にて、九州酪農青年女性会議平成24年度指導者研修会が開催されました。

今年の研修会メインテーマは『牛乳で日本を元気にすっど！～どっさい学ばや 牛乳のよかところ～』（宮崎弁で“牛乳で日本を元気にしよう！たくさん学ぼう、牛乳のいいところ”）であり、当日は九州各県から110人の酪友が参集しました。

開会では、主催の九州酪農青年女性会議・内ヶ島賢勇委員長挨拶の後、地元を代表して宮崎県農政水産部畜産・口蹄疫復興対策局畜産課 課長 押川 晶氏、宮崎県経済農業協同組合連合会代表理事副会長 山崎 政志氏が祝辞を述べました。

まず始めに、料理家、管理栄養士、フードコーディネーターの小山 浩子先生より「ミルクを科学する…牛乳、乳製品の可能性とメニュー開発論～」と題しての講演があり、子供、中高年、高齢者それぞれのケースにおける牛乳の栄養と機能、そしてその機能をいかに料理等に活かしていくかということを手際よく、わかりやすくお話しして頂きました。

後半の部では、前半の講演内容を踏まえて、小山先生による牛乳を使ったレシピの紹介と調理の実演を行いました。今回実演して頂いたのは「ぽかぽかミルク鍋」「白いマーボー豆腐」「日向夏ジャム入りミルク甘酒」の3品。それぞれのメニューには宮崎県産の食材を使うという小山先生のアイデアと



▲ 小山先生調理実演



▲ 試食

シングアウトキッズ ▶



◀ 芋ザイルのパフォーマンス

あざやかな調理に参加者の皆さんは釘付けになりました。出来上がった料理は参加者を代表して九州酪農青女の内ヶ島委員長、結城・小菌副委員長が試食し、感想を述べられました。3品共に牛乳の旨味が活かした美味しい料理に仕上がっており、試食された皆さんから「美味しい！」と絶賛の声が上がっていました。



▲ 宮崎牛ステーキ

研修終了後の交流会は、地元宮崎の甘藷生産農家の若手で結成された「芋ザイル」の激しく華麗なパフォーマンス、そして、日南市の小学生のボーカルグループ「シングアウトキッズ」が宮崎の牛乳PRソング「1.2.3.4 ゴククン牛乳」など、素敵な歌声を披露し、会は大いに盛り上がりました。

研修終了後の交流会は、地元宮崎の甘藷生産農家の若手で結成された「芋ザイル」の激しく華麗なパフォーマンス、そして、日南市の小学生のボーカルグループ「シングアウトキッズ」が宮崎の牛乳PRソング「1.2.3.4 ゴククン牛乳」など、素敵な歌声を披露し、会は大いに盛り上がりました。

また、宮崎県経済農業協同組合連合会のご厚意により、今年10月に長崎で行われた第10回全国和牛能力共進会で見事2連覇を達成した宮崎牛のステーキが振る舞われ、会場の皆さんは「日本一」の牛肉の味に舌鼓を打っていました。

2日目は、会場を宮崎エースレーンに移し、ボーリングによるスポーツ大会を開催しました。個人の点数を競う個人戦と、各県の1人当たりの平均点数を競う団体戦を行い、団体戦では地元宮崎県Dチームが、個人戦では大分県の梶原克実さんが見事優勝を果たしました。

最後に、次回開催県である大分県を代表して、大分県酪農青年女性会議の河合翔吾委員長が閉会の辞を述べ、24年度指導者研修会は幕を閉じました。

(Y.K)



No.238  
農事組合法人  
霧島第一牧場  
鹿児島県霧島市

▲霧島第一牧場の皆さん、  
向かって前方一番左側が組合長の池田健太郎さん

## 霧島の大地に半世紀 広大な草地に根ざした酪農経営

今回は鹿児島県のほぼ中央部に位置し、県内屈指の観光地であり、また交通、産業の要所として発展を続ける鹿児島県霧島市より「農事組合法人霧島第一牧場」を紹介します。

### 地域の概況

霧島市は鹿児島県の中央部に位置し、県内で2番目の人口規模を有する市です。薩摩地方と大隅地方、宮崎県を結ぶ交通の要所として、国道、鉄道などの交通手段が発達し、古くから鹿児島県内有数の都市として発展してきましたが、鹿児島空港の開港や九州自動車道の開通により、その地理的好条件を生かし、国分準人テクノポリスの指定を受けて、ソニーや京セラなどの大手企業の生産拠点が置かれています。一方で日本百名山の一つに数えられる霧島山や初午祭での「鈴かけ馬踊り」で有名な鹿児島神宮、霧島温泉郷等、県内有数の観光スポットとしても知られています。

今回ご紹介する農事組合霧島第一牧場は、鹿児島県酪農業協同組合（南原需代表理事組合長）に所属しております。同組合は農家戸数217戸、年間生乳生産量は87,763t（平成23年度実績）となっております。今回は霧島第一牧場の組合長である池田健太郎さん、牧場長の池田雄太さんにお話を伺いました。



### 経営概況

農事組合法人霧島第一牧場（以下、霧島第一牧場）は、現在経産牛168頭、未經産41頭、育成70頭、哺育54頭、計328頭を飼養されています。月平均の出荷乳量は4t、年間出荷乳量は1,700t（23年度1～12月実績）となっております。現在、常勤組合員3名、雇用6名、計9名で飼養管理を行っております。雇用しているスタッフには段階的に色々な作業を担当させ、将来的には全ての作業をこなせるようにしているそうです。

草地面積は81haで、自給飼料は主にイタリアンとなっております。糞尿処理については固液分離して堆肥化し、出来上がった堆肥及びスラリーは全て草地へ還元しています。飼料給与はTMRで、自家産のイタリアンサイレージ23kg、個人配合



牧場全景



スラリータンク

### 牧場の沿革

である霧島ミックス（全酪連）16kg、アルファルファ4kg、大豆粕、醤油粕それぞれ0.5kg、添加剤適量をミキサーで混ぜて給与しております。育成牛には搾乳牛の残渣とサイレージ、でんぶん粕を給与しています。

また、乾乳にはチモシーと、全酪連の移行期用配合飼料「ドライ&フレッシュ」を適量給与しています。

る国有林地118.6haの払下げを受け、牧園町の酪農家の有志19戸が参加し任意組合霧島第一牧場が発足しました。払下げはあくまで共同利用を条件とし、また後々法人化するよう行政から指導がなされたため、参加農家は平等に土地代を負担していました。その後昭和41年より国の開拓パイロット事業として3か年にわたり基盤整備を実施し、牛舎飼料庫サイロの建設、大型農機具、乳牛の導入を進めました。

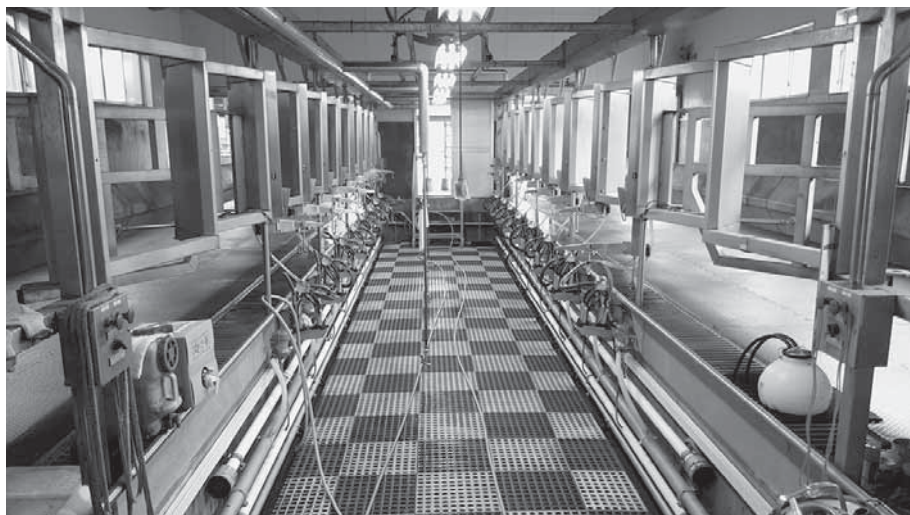
昭和45年に任意組合から農事組合法人霧島第一牧場が設立され、それ

ぞれの土地は全て法人名義に現物出資となり、同年8月に正式に登録されました。参加農家19名は現物出資者として評価され、土地代は引き続き各人負担となりました。

しかし、法人化して以降、経営が非常に苦しい時期が続き、昭和50年代に入っても経営は一進一退の状態が続きました。そこに牧場周辺の地下資源が注目され、昭和48年に地熱利用の調査が入り、平成6年に地熱発電で3万KWの発電が可能との結果が出たのです。

そして、地熱発電所建設の為、牧場の土地10haを九州電力、日鉄鹿児島に売却する事となり、この土地代の収益で牧場の経営も徐々に改善し、黒字化となりました。売却した土地は平成8年より九州電力大霧発電所として稼働しています。

その後も設備の充実、規模拡大に取り組み、平成21年に現在の池田組合長が就任してからは、隣接の宮崎県での口蹄疫発生等大きな災害もありましたが、8頭ダブルのヘリンボンパーラーの稼働や、乾乳牛舎



パーラー内部

の増築、機械の導入などに取り組み、現在では鹿児島県内でも有数の生産量を誇る牧場となっております。

### 放牧経営からフリーストール牛舎飼養への転換

霧島第一牧場の設立理念は、広大な土地を活用した、外国並みの草地酪農を行うというものでした。設立当初より放牧による飼養を行っていた



FS牛舎内部

ましたが、昭和50年代に入り、生乳の品質が厳しく規制されるようになり、特に脂肪率が3.3%未満の生乳は工場で受乳してくれなくなったことで、放牧での飼養を断念せざるを得なくなりました。平成5年にフ

リーストール牛舎とバーラーを建設し、放牧酪農からリーストール牛舎での飼養へと転換を行いました。

飼養給与体系も大きく変わり、放牧をやめてリーストールへ移行する前には、暫くスタンション牛舎に入れて、TMR給与に馴らしてから新牛舎への移行を行ったそうです。リーストール体系に移行してからは、暑熱対策としてスプリングカラーの設置を行うなど、カウコンフォートにも気を配っています。削蹄についてもプロの削蹄師に依頼して年3回実施しています。また、後継牛については、最近数頭の導入を行ったものの、牧場設立当時からほぼすべてを自家産で確保されています。このような取り組みが功を奏し、現在では1頭あたり平均乳量は33.7kgという成果を上げて、県内でもベスト5に入る生乳生産量となっています。

### 厳しい気象条件の中での 高品質自給飼料生産

霧島第一牧場がある大霧地区は標高約900mの高地にあるため、南国鹿児島とはいえ冬場は氷点下まで気温が下がり、しかも天候の移り変わりが激しい土地で気象条件的には北海道の函館と同じくらいのことです。めまぐるしく変わる天候により、播種や刈取り等の時期のタイミング

を見極めるのには大変苦労されるそうです。

刈り取ったイタリアンは以前は乾草として調整していましたが、現在は殆どをサイレージにしています。サイレージの調整も、この厳しい天候条件の中、少しでも良質なものを生産できるよう、ハーベスターに噴霧器を付けて収穫時に調整剤を噴霧できるようにしています。サイレージにまんべんなく調整剤が混ざること、良質なサイレージに仕上がるそうです。

### 最後に

霧島第一牧場は平成24年に牧場設立45周年を迎え、その記念として、「農事組合法人霧島第一牧場四十五周年記念誌」を発行しました。記念誌はこれまでの霧島第一牧場の約半世紀にわたる歩みと、これまで牧場を支えてこられた方々、そして現在牧場経営を支えている組合員の方々の思いがぎっしり詰まった内容となっており、読ませて頂いて大変感銘を受けました。

そして、最後に池田組合長に今後の目標について伺ったところ、「もう少し経営規模を拡大し、生産乳量も増やしていきたいが、規模拡大には資金も必要なのでバランスを考えていかないといけない。この牧場は農事組合。組合員の出資を受けて成



育成牛舎内部

り立っているので、組合員に還元していくためにそれなりの収益を上げていかないといけないですから」と語って頂きました。

昭和35年に任意組合として設立してから約半世紀、幾多の苦難も組合員の努力で乗り越え、今や鹿児島県内でも有数の生産量を誇る牧場となった霧島第一牧場。

今後ますますの発展を祈念し、取材を終えました。

# 作品募集のお知らせ

主催：全国酪農青年女性会議

## 第40回

## らくのうこどもギャラリー

### 1 募集規定

- (1) 酪農を中心とした題材の図画（大きさは自由）。
- (2) 自作で未発表のものに限ります。
- (3) 作品には、題名・住所・氏名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4) 作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

### 2 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

### 3 締切日

平成25年5月24日（金）（当日消印有効）

### 4 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性（婦人）会議事務局宛に提出してください。

### 5 審査結果の発表

「第42回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表資料要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

### 6 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点以内
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干  
（牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます）
- ・あすなろ賞 若干  
（小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます）

◎特選に選ばれた方は、保護者（1名）同伴で「第42回全国酪農青年女性酪農発表大会」に招待します。

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は「全酪連会報」の表紙に、作者の顔写真と審査講評を最終ページに掲載します。



第39回特選「草をたべている牛」  
横山恵也さん

## 第4回

## 酪農いきいき フォトコンテスト

### 1 テーマ

- ①「牛のいる風景」
- ②「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。



第4回最優秀賞 富岡一也氏

### 2 募集規定

- (1) 写真は可能な限りデータで提出下さい。
- (2) 自作で未発表のものに限ります。
- (3) 作品には、題名・氏名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

### 3 応募資格

酪農家

### 4 締切日

平成25年5月24日（金）（当日消印有効）

### 5 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性（婦人）会議事務局宛に提出してください。

### 6 審査方法

応募作品を「第42回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。  
（応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。）

### 7 審査結果の発表

- ①「第42回全国酪農青年女性酪農発表大会」2日目に投票結果として掲示します。
- ②「全酪連会報」の表紙に使用します。（号数未定）

### 8 褒章

- ・特選 1点（2テーマの中で特別に投票数の多かった作品）
  - ・入選 若干数（特選を除いて投票数の多かった作品数点）
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
- ◎提出していただいた作品の返却は致しません。
- ◎応募していただいた作品は、全酪連会報への掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）で使用する場合がありますのでご了承ください。

#### 提出先一覧

##### ●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1  
酪農センター 全酪連札幌支所内  
TEL 011-241-0765

##### ●東北酪農青年婦人会議

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20  
東邦ビル 全酪連仙台支所内  
TEL 022-221-5381

##### ●関東甲信越酪農青年女性会議

〒108-0014 東京都港区芝4丁目17-5  
全酪連東京支所内  
TEL 03-5931-8011

##### ●中部酪農青年女性会議

〒465-0095 名古屋市長久保高社1-89  
第2東昭ビル2階 全酪連名古屋支所内  
TEL 052-771-7104

##### ●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10  
サムティ新大阪フロントビル6階 全酪連大阪支所内  
TEL 06-6305-4196

##### ●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15  
事務機ビル 全酪連福岡支所内  
TEL 092-431-8111

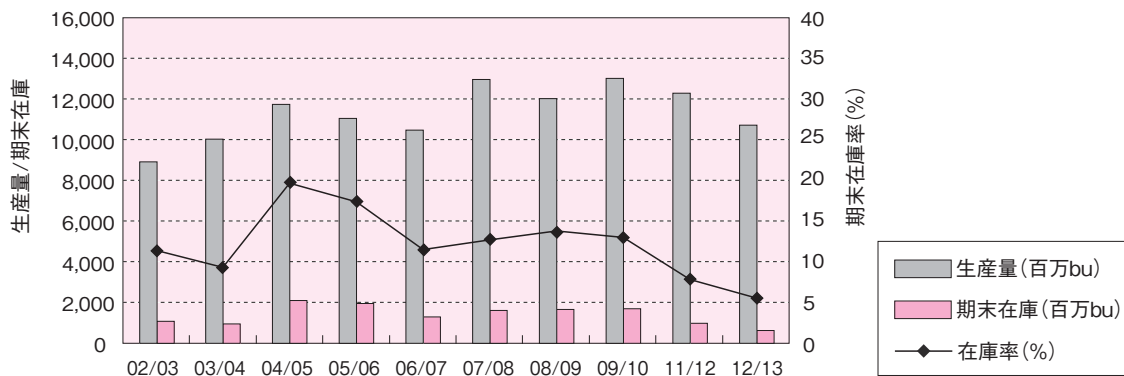


# 原料情勢

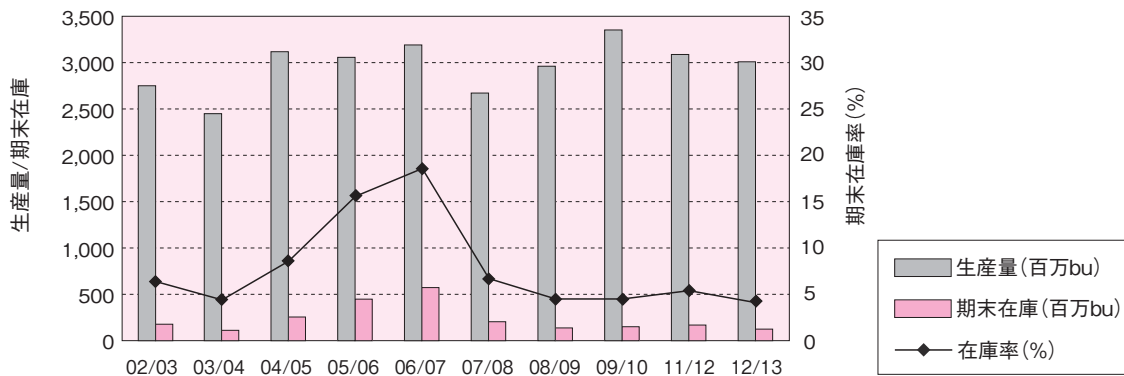
平成25年2月

|                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月8日発表<br>米国農務省トウモロコシ<br>需給予想 | <p>【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2 (147.2) bu/エーカー、生産量123億6,000万 (123億5,800万) bu、総需要量125億2,700万 (125億2,700万) bu、期末在庫9億8,900万 (9億8,800万) bu、在庫率7.9 (7.9) %。</p> <p>【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4 (123.4) bu/エーカー、生産量107億8,000万 (107億8,000万) bu、総需要量112億3,700万 (112億6,700万) bu、期末在庫6億3,200万 (6億200万) bu、在庫率5.6 (5.3) %。</p> |
| トウモロコシ相場動向                    | 1月は、期末在庫が下方修正されたことにより相場は急上昇し、大豆・原油市場の上昇に合わせて2か月ぶりに740¢台に載せた。しかし2月に入りブラジルの生産量見通しが予想を上回ったことで再び値を下げ、700¢前後となっている。今後のシカゴ相場は、期末在庫見通しで若干の回復が見られたものの、以前として低い水準であることから上昇に注意を払う展開が予想される。南米のブラジル、アルゼンチンでの収穫は2月後半から順次開始される。天候に大きな影響を受ける時期は脱しているものの、生産量等今後も注視は必要となる。                                                                                            |
| 国内産大豆粕                        | 米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億2,500万 (1億3,500万) bu、在庫率4.1 (4.4) %。期末在庫が下方修正されたが、材料が出尽くしたことから利益確定の売りが起こり、1,400¢前半の値動きとなっている。国産大豆粕発生量は若干増える可能性もあるものの以前低調なままである。しかし、需要も減退していると思われ、需給バランスはそれほど崩れてはいない。輸入大豆粕はEU、中近東、東南アジア等の需要が旺盛なことから現地価格がほとんど下がっていない。国産大豆粕価格も、シカゴ相場は軟調であるものの大幅な円安や輸入大豆粕の高値からかなり強含んでいる。                                                     |
| 糟糠類                           | フスマの発生量は若干増加するものの、長期間使用量が多かったため、需給は極めてタイト。そのため直近では使用量を減らして対応するケースもある模様。今後は輸入品が入船する見込みだが、配合割合が増加傾向になれば玉不足になる可能性があり、十分注意が必要。グルテンフィードは発生量が増加する見込みだが、需要も堅調なため需給は若干締まり気味。輸入は順調に推移しているため一部の港を除いては受け渡しに問題がないと思われる。しかし、輸入品が割高になりつつあり、今後の入船が減少する可能性があることや、フスマの代替で使用量が増える可能性もあり、注意が必要。                                                                        |
| 海上運賃                          | 新造船など船腹過多気味から緩めで推移しているが、今後は中国の旧正月節が明けることや南米産穀物の収穫期を迎え値動きが活発になることから上昇の可能性は高い。原油市場はスペインの不正資金疑惑、イタリア総選挙の不透明感などの欧州懸念の再燃から軟調に推移している。                                                                                                                                                                                                                     |

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



# 輸入粗飼料の情勢

平成25年2月

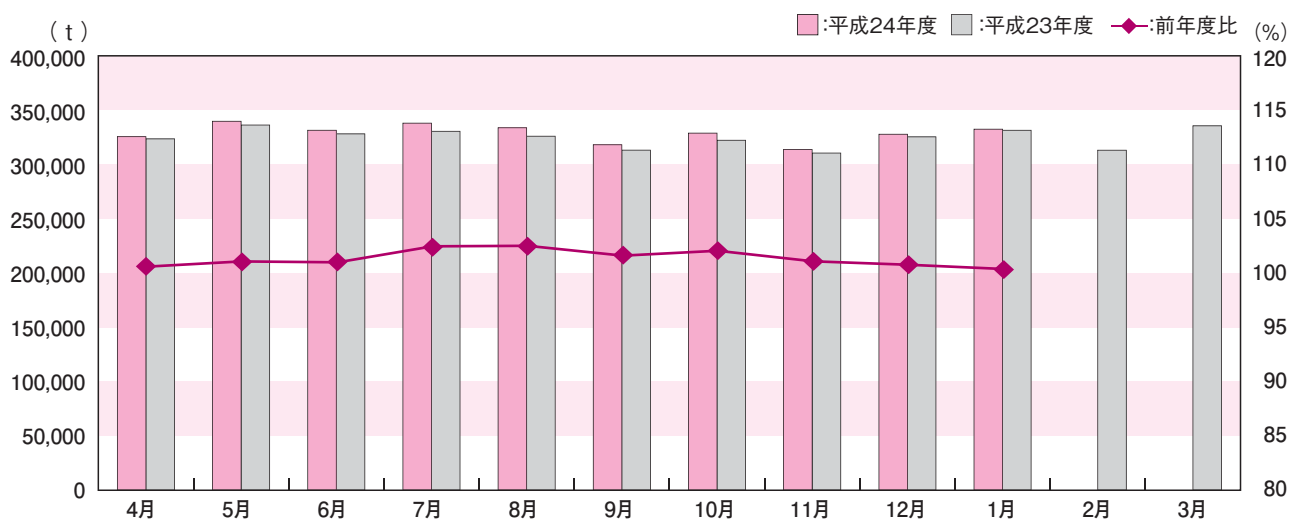
|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北米コンテナ船<br>フレート         | 2月6日まで延期となっていた北米東海岸でのストライキは、労使間での協議で暫定合意に達し、ストライキ実施は回避された。西海岸に貨物が集中する可能性から予想されていた <b>コンジェスチョン・チャージ</b> （混雑に対するチャージ）も <b>導入回避の見込み</b> だが、“暫定”合意のため、正式に合意されると言われている3月1日までは注意が必要。WTSA加盟の船会社から1月15日付けで発表された <b>GRI（基礎レート）\$200値上げは3月1日に延期</b> となっている。輸入量が輸出の増加量に追いついていないPNWでは引き続き空コンテナが不足しており、デリバリーには注意が必要。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 外国為替                    | 2012年11月の衆議院解散の前後から徐々に円安に動き始め、11月末で82.1円/ドル、12月末で85.5円/ドル、1月末で91.1円/ドルとなり、 <b>2月上旬時点で約94円/ドル</b> の値動きを見せている。2月以降は産地価格および海上運賃も上がる見込みであることから、牧草価格の値上げが続くことが予想されている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ビートパルプ                  | 【米国産】産地では製糖作業が順調に行われており、春先まで生産が続く予定。昨年11年産よりも作柄は良いため、生産量は例年並みに回復した模様。ただし11年産の繰越在庫がなく、欧州や日本からも引き合いが増えているため、引続き高値で推移することが予想されている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| アルファルファ<br>ヘイ           | 【ワシントン産】産地価格の高止まりとフレート価格差から、中国向けについてはカリフォルニア産へシフトしていると伝えられていたが、円安の影響により日本向けについても徐々にカリフォルニア産へ需要がシフトしていると伝えられている。UAE向けについては、これまで通り安定した出荷が続いている。<br>【カリフォルニア産】PNW産アルファルファの産地価格の高止まりとフレート価格差から、UAEや中国向けはインペリアルバレー産の引き合いが強く、雨当たり品はUAE向けに多く出荷されていると伝えられている。北カリフォルニア産も、UAEや中国向けのみならず、日本や韓国からの引き合いも強まっている模様。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| チモシー                    | 【米国産】ワシントン州では、雨当たりの影響から酪農向けプレミアム品や中間グレード品は確保が非常に困難な状況であり、需要は引き続きタイト。近年の順調な需要を受け、チモシーは生産コストに対して高く売れ、産地では儲かる農産物として定着しており、13年産は作付面積が増えることが予想されている一方、12年産の1番刈終了後にトウモロコシや大豆などの穀物への転作が進められた圃場も多いため、13年産は作付面積が減るとの予想もされている。<br>【カナダ産】産地のレスブリッジとドライランドでは、ともに1番刈の収穫時期に雨当たり被害が発生したためハイグレード品の発生量は限定的である。両産地とも、米国産1番刈の状況を受けて中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況となっており、産地価格は高値で推移している。チモシーの他に、産地ではキャノーラ（菜種）などの穀類も多く作付けされている。13年産の作付面積の増減は穀類の相場価格によっても変化があると考えられている。                                                                                                                                                                                         |
| スーダン                    | 【インペリアルバレー産】12年産は、早播きスーダングラスの作付面積の減少やスーダン種子価格の高騰から細心のハイグレード品の発生量が限定的となった。中間グレードやローグレード品の発生量についても、降雨の影響で発生量が予想より大きく減少する結果となっている。そのため、かろうじて雨に当たっていないか軽く雨当たりしたスタックにも、グレードを問わず引き合いが集中している。激しい雨当たり品もUAEや韓国向けに多く出荷されている模様で、産地価格が下支えされる要因となっている。近年の順調な需要を受け、産地では儲かる農産物として定着しており、13年産は早播きスーダンの作付面積が増えることが予想されている。しかし、ここ数年話題になっていなかった <b>インペリアルバレーでの農業用水の使用制限について、実施強化が懸念され始めている</b> ことや、スーダン種子価格が昨年より落ち着いているものの高値で推移していることから、作付面積は減ることも予想されている。                                                                                                                                                                                           |
| クレイングラス                 | 1、2番刈は良品の発生が多かったが、3番刈は雨当たり被害や刈遅れ気味となったスタックも多く、4番刈についても湿度の高い気候の影響で、ブリーチや茶葉が多めの傾向となっている。早くから11年産の在庫もなく、3番刈以降の作柄が良くない状況下で韓国向けからの引き合いも強くなっているため、産地価格は引き続き堅調に推移している。12年産のインペリアルバレーの作付面積は1/15時点で前年対比115%の16,380エーカーであり、近年の順調な需要を受けて、13年産は生産量が増えることが予想されている。しかし、前述の通りインペリアルバレーでの農業用水の問題も懸念されており、注意が必要。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| バミューダ                   | バミューダヘイ、バミューダストローともに、7月末の激しい降雨による雨当たり被害を受けた。国内向け・輸出处ともに強い需要が続くと予想されているため、今後の産地価格も弱含むことなく推移する見込み。また、中国遼寧省大連市で11月下旬に口蹄疫が発生した影響で、日本では中国産稲ワラが一時保留となっており、バミューダストローの引き合いがさらに強まる可能性もあるが、現時点で産地在庫は売切れ（成約済み）となっており、追加買付けは難しい模様。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ストロー類                   | フェスキューストロー、ライグラス（ペレニアル種）ストローはともに11年産の在庫がなく、自給飼料不足の影響で韓国からの引き合いも強くなっているため、12年産もストロー類は引き続きタイトに推移している。中国での口蹄疫の影響で、日本では中国産稲ワラが一時保留となっており、代替として国産稲ワラの需要が増えている模様だが、今後の動向次第では米国産ストロー類の引き合いがさらに強まる懸念される。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| オーツヘイ                   | 【西豪州産】収穫時期の天候は良好であったため、雨当たり品が少なく、ほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均4.0t/haと例年よりも30%程度減少している。西豪州は作付面積が20%減少と言われる中で単収も少ないため、生産量は大きく減少していると見込まれている。<br>【南豪州産】西豪州同様、ほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均5.0t/haと例年よりも20～25%減少。作付面積はほとんど変わらないが、生産量は減少すると見込まれている。<br>【東豪州産】ビクトリア州でもほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均4.5t/haであり、作付面積は昨年と変わらないものの生産量は減少すると見込まれている。収穫が遅い圃場で雨当たり品のローグレード品も発生しているが、国内からの引き合いも非常に強いと言われている。<br>【総合】どの産地もハイグレード品がほとんどで中間・ローグレードの発生量が少なく、雨当たり被害を酷く受けた11年産と真逆の作柄となった。産地価格については、①相場価格が高値で推移している小麦やキャノーラ（菜種）等との作付の競合、②北米の輸入牧草産地と同様にオーツヘイの買付け合戦が起きてしまっていること、③経済が安定しており通貨の豪州ドルが強いこと、④生産量が例年より少ないことから、 <b>12年産価格は相対的に値上がりすることが予想</b> されている。 |
| 豪州産小麦<br>（ウィート）<br>ストロー | 各産地とも12月上旬から、小麦ならびに小麦ストローの本格的な収穫が始まった。オーツヘイと同様に、生育中に少し干ばつ傾向の気候が続いたため、単収は非常に少ない作柄となっている。長さが求められる敷料用ストローは、発生がかなり限定的になると見込まれている。また、11月下旬に西豪州でまとまった降雨があり、雨当たり品も多く発生している模様。中国での口蹄疫の影響で豪州産ストローについても問い合わせが多く寄せられているようだが、現時点で産地在庫は売切れ（成約済み）となっており、追加買付けは厳しい模様。単収・発生量が少ないことから産地価格は値上がりして高値で推移している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## 平成24年度（1月）地域別生乳生産量

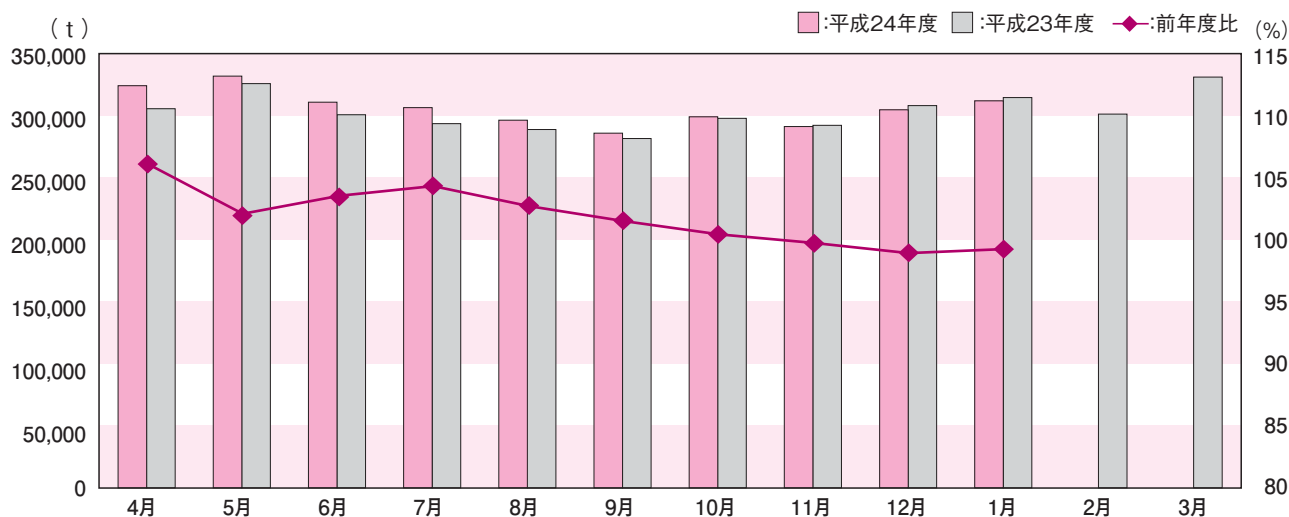
单位：t

|           | 全 国       | 北海道       | 東 北     | 北 陸    | 関 東     | 東 山     | 東 海     | 近 畿     | 中 国     | 四 国     | 九 州     | 沖 縄    |
|-----------|-----------|-----------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 23 年度 1 月 | 645,750   | 331,298   | 52,019  | 8,829  | 92,456  | 11,185  | 34,749  | 17,486  | 25,865  | 12,036  | 57,569  | 2,258  |
| 2 月       | 614,082   | 312,946   | 49,521  | 8,382  | 88,672  | 10,472  | 33,129  | 16,653  | 24,789  | 11,472  | 55,775  | 2,271  |
| 3 月       | 666,347   | 335,386   | 54,152  | 9,249  | 97,760  | 11,542  | 36,017  | 18,526  | 27,139  | 12,421  | 61,632  | 2,523  |
| 24 年度 4 月 | 649,417   | 325,403   | 53,039  | 9,170  | 96,089  | 11,050  | 35,816  | 18,021  | 26,669  | 12,113  | 59,575  | 2,472  |
| 5 月       | 671,328   | 339,593   | 54,297  | 9,227  | 98,067  | 11,665  | 36,780  | 18,427  | 27,627  | 12,313  | 60,803  | 2,529  |
| 6 月       | 642,043   | 331,311   | 51,516  | 8,701  | 91,724  | 11,050  | 34,328  | 17,034  | 25,850  | 11,373  | 56,767  | 2,389  |
| 7 月       | 644,196   | 337,854   | 51,884  | 8,548  | 90,654  | 11,038  | 33,415  | 16,758  | 25,390  | 10,975  | 55,312  | 2,368  |
| 8 月       | 629,828   | 333,599   | 50,211  | 8,130  | 87,907  | 10,950  | 31,827  | 16,191  | 24,820  | 10,636  | 53,274  | 2,283  |
| 9 月       | 603,727   | 317,951   | 47,759  | 7,919  | 84,415  | 10,377  | 30,866  | 15,292  | 24,164  | 10,399  | 52,368  | 2,217  |
| 10 月      | 627,633   | 328,673   | 50,249  | 8,156  | 88,420  | 10,801  | 32,598  | 15,853  | 25,128  | 10,881  | 54,617  | 2,257  |
| 11 月      | 604,696   | 313,586   | 48,193  | 7,946  | 86,110  | 10,496  | 32,053  | 15,461  | 24,356  | 10,741  | 53,559  | 2,195  |
| 12 月      | 632,253   | 327,645   | 50,786  | 8,277  | 89,785  | 10,666  | 33,263  | 16,266  | 25,332  | 11,271  | 56,675  | 2,287  |
| 1 月       | 644,121   | 332,296   | 51,809  | 8,557  | 91,858  | 11,015  | 34,476  | 16,647  | 25,962  | 11,544  | 57,583  | 2,374  |
| 前年同月比     | 99.7%     | 100.3%    | 99.6%   | 96.9%  | 99.4%   | 98.5%   | 99.2%   | 95.2%   | 100.4%  | 95.9%   | 100.0%  | 105.1% |
| 24 年度 累計  | 6,349,242 | 3,287,911 | 509,743 | 84,631 | 905,029 | 109,108 | 335,422 | 165,950 | 255,298 | 112,246 | 560,533 | 23,371 |
| 前年同月比     | 101.5%    | 101.3%    | 104.8%  | 99.8%  | 101.7%  | 97.7%   | 101.1%  | 98.7%   | 101.6%  | 98.1%   | 102.6%  | 102.5% |

## 北海道の月別生乳生産量



## 都府県の月別生乳生産量

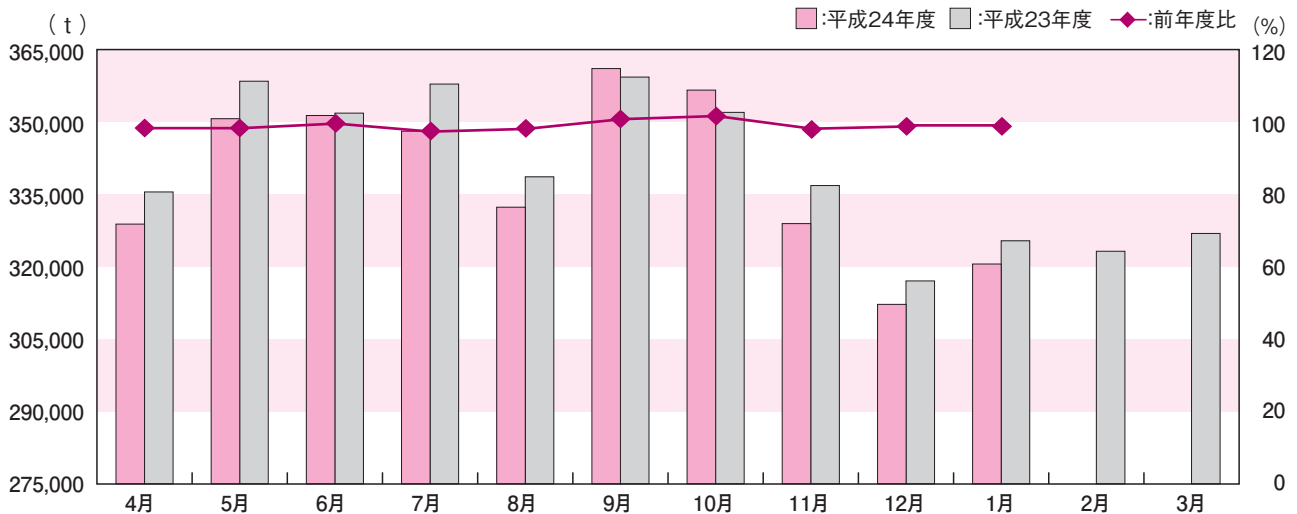


## 平成24年度（1月）用途別処理量

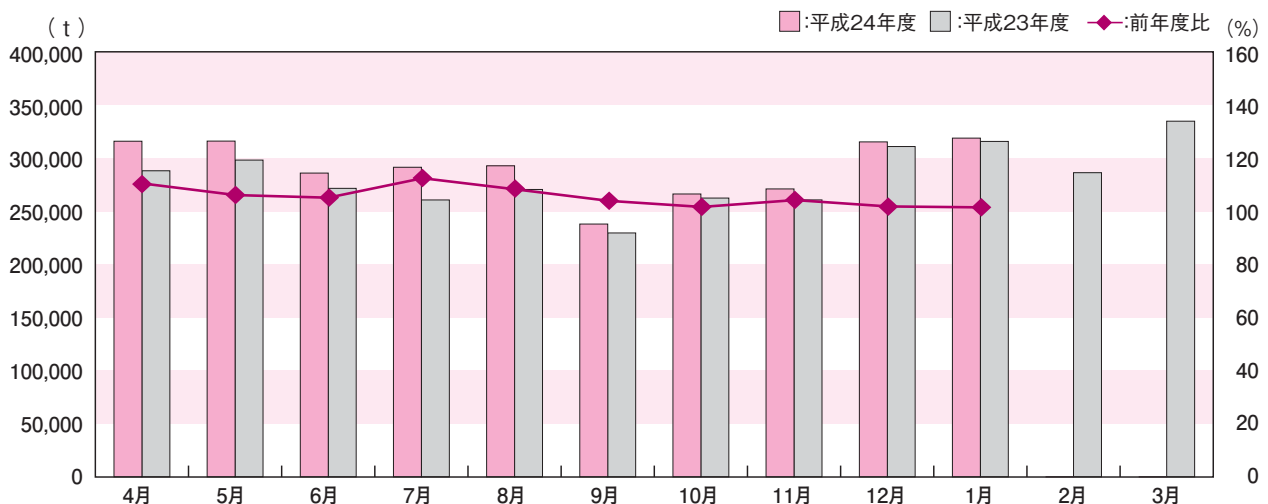
単位：t

|           | 用 途 別 処 理 量 |           |         |           |         |           |        |        |
|-----------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|--------|--------|
|           | 生乳生産量       | 牛乳等向け     | 業務用向け   | 乳製品向け     | チーズ向け   | クリーム等向け   | その他    | 欠 減    |
| 23 年度 1 月 | 645,750     | 325,351   | 24,812  | 315,558   | 46,565  | 96,795    | 4,841  | 1,002  |
| 2 月       | 614,082     | 323,184   | 25,383  | 286,133   | 45,293  | 99,089    | 4,765  | 961    |
| 3 月       | 666,347     | 326,874   | 28,301  | 334,591   | 48,467  | 109,346   | 4,882  | 1,038  |
| 24 年度 4 月 | 649,417     | 328,810   | 27,221  | 315,743   | 41,550  | 105,614   | 4,864  | 1,014  |
| 5 月       | 671,328     | 350,642   | 23,794  | 315,862   | 44,713  | 107,516   | 4,824  | 1,019  |
| 6 月       | 642,043     | 351,307   | 22,672  | 285,771   | 40,825  | 106,295   | 4,965  | 1,144  |
| 7 月       | 644,196     | 348,063   | 23,731  | 291,244   | 41,566  | 111,117   | 4,889  | 1,038  |
| 8 月       | 629,828     | 332,311   | 23,748  | 292,625   | 42,664  | 106,788   | 4,892  | 1,069  |
| 9 月       | 603,727     | 361,031   | 27,619  | 237,824   | 33,734  | 106,116   | 4,872  | 1,026  |
| 10 月      | 627,633     | 356,569   | 29,028  | 266,099   | 39,673  | 111,273   | 4,965  | 1,024  |
| 11 月      | 604,696     | 328,911   | 29,473  | 270,866   | 38,665  | 108,712   | 4,919  | 1,021  |
| 12 月      | 632,253     | 312,182   | 28,054  | 315,111   | 40,120  | 107,848   | 4,960  | 1,087  |
| 1 月       | 644,121     | 320,541   | 25,133  | 318,662   | 41,757  | 96,135    | 4,918  | 1,115  |
| 前年同月比     | 99.7%       | 98.5%     | 101.3%  | 101.0%    | 89.7%   | 99.3%     | 101.6% | 111.3% |
| 24 年度 累計  | 6,349,242   | 3,390,367 | 260,473 | 2,909,807 | 405,267 | 1,067,414 | 49,068 | 10,557 |
| 前年同月比     | 101.5%      | 98.8%     | 101.5%  | 105.2%    | 100.7%  | 102.7%    | 90.9%  | 100.2% |

### 牛乳等向け処理量の推移



### 乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

# 酪政連活動報告

(平成 24 年 11 ~ 25 年 2 月)

日本酪農政治連盟

|                  |                                                                                                  |                   |                                                                                                                                                    |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11/27            | <b>TPP 対応検討協議会(幹事長)</b><br>◆ 11.15 畜産ネットワーク TPP 阻止緊急集会総括<br>◆ 今後の TPP 反対運動に関する意見交換               | 1 / 23            | <b>自由民主党酪政会(副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 農水省より情勢報告、酪政連より要請(2人)<br>◆ 意見交換                                                                                   |
| 11/28            | <b>自民党政権公約説明会(委員長、幹事長ほか)</b>                                                                     | 1 / 23            | <b>江藤副大臣へ面談要請(副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 平成 25 年度畜産物価格等に係る要請                                                                                             |
| 12/3<br>~<br>7   | <b>衆議院総選挙陣中見舞い(委員長、副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 北陸、関東、東北方面                                               | 1 / 23            | <b>自由民主党畜酪小委員会(副委員長ほか)</b><br>◆ 現地視察報告、農水省より畜産物価格等の説明<br>◆ 質疑、意見交換<br>◆ 厚労省より輸入牛肉規制緩和措置の説明                                                         |
| 12/10<br>~<br>14 | <b>衆議院総選挙陣中見舞い(委員長、副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 九州方面                                                     | 1 / 24            | <b>自由民主党畜酪小委員会(副委員長ほか)</b><br>◆ 25 年度畜産物価格等の取り纏め、幹部一任<br>取り付け                                                                                      |
| 12/21            | <b>三役会議、合同委員会</b><br>◆ 総選挙結果と今後の活動について<br>◆ 議員出席は本人 13 人、代理 17 人の計 30 人                          | 1 / 24            | <b>自由民主党農林部会幹部会(副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 25 年度畜産物価格等の団体への申し渡し                                                                                          |
| 1 / 7            | <b>賀詞交換会(委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 終了後、農水省他へ年始挨拶                                                       | 1 / 25            | <b>自由民主党農林部会・畜酪小委員会合同会議(副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 25 年度畜産物価格、税制改正等決定報告、団体挨拶                                                                             |
| 1 / 8            | <b>自由民主党農林部会(幹事長ほか)</b><br>◆ 24 年度補正予算、25 年度予算・税制改正について<br>◆ 農水省より説明後、意見交換                       | 1 / 29            | <b>農林水産戦略調査会・農林部会・農政推進協議会合同会議</b><br>◆ 農水省より 25 年度農林関係予算説明、質疑、<br>意見交換                                                                             |
| 1 / 9            | <b>自由民主党農林部会(幹事長ほか)</b><br>◆ 24 年度補正予算、25 年度予算について<br>◆ 農水省より説明後、意見交換                            | 2 / 6             | <b>関東地区酪政連協議会研修会(会長、副会長ほか)</b><br>◆ 講演「日本の外交と経済再生を考える」元航<br>空幕僚長 / 田母神俊雄氏<br>◆ 会員組織、中央団体ほか計 64 人出席                                                 |
| 1 / 10           | <b>自由民主党農林部会(幹事長ほか)</b><br>◆ 25 年度予算、畜酪価格等について<br>◆ 農水副大臣、農水より説明、意見交換<br>◆ 畜産酪農対策小委員会の日程         | 2 / 7             | <b>TPP 交渉参加の即時撤回を求める会(委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 団体要請(畜産ネットワークを代表し委員長<br>が要請)…9 団体<br>◆ 役所より TPP 交渉内容、経済財政諮問会議等<br>議論に係る説明<br>◆ 質疑、意見交換等                  |
| 1 / 11           | <b>三役会議、合同委員会</b><br>◆ 25 年度酪農政策、予算確保重点要請について<br>◆ 谷津義男顧問臨席、農水省牛乳乳製品課より<br>情勢等報告<br>◆ 会合終了後、要請活動 | 2 / 13<br>~<br>14 | <b>鹿児島県酪政連酪農対策要請集会等に<br/>同行(委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 鹿児島選出議員、加治屋義人副大臣への要請<br>◆ 農水省牛乳乳製品課より 24 年度補正予算、<br>25 年度予算等に係る聴講                                  |
| 1 / 11           | <b>加治屋義人副大臣へ面談要請(委員長、副委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 他の政務三役室へも要請書手交                                         | 2 / 15            | <b>事務局長・事務局担当者会議(委員長、幹事長ほか)</b><br>◆ 出席計 44 人(うち会員組織 36)<br>◆ 研修「24 年度補正予算、25 年度同予算等につ<br>いて」農水省牛乳乳製品課より聴講<br>◆ 協議「本連盟の 24 年度収支案、25 年度予算<br>案について」 |
| 1 / 16           | <b>自由民主党畜酪小委員会(副委員長ほか)</b><br>◆ 平成 25 年度畜産物価格及び関連対策等に<br>係る団体要請(4 団体)<br>◆ 農水生産局長より説明、意見交換       |                   |                                                                                                                                                    |
| 1 / 17           | <b>自由民主党畜酪小委員会</b><br>◆ 酪農、肉牛、養豚に分けて質疑、意見交換                                                      |                   |                                                                                                                                                    |
| 1 / 18           | <b>畜産振興議員連盟総会</b><br>◆ 平成 25 年度畜産物価格及び関連対策等に<br>係る団体要請(6 団体)<br>◆ 農水生産局長より説明、意見交換                |                   |                                                                                                                                                    |

平成24年度

# 全酪連会報 読者アンケート 〈ご協力をお願い〉

いつも全酪連会報をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

この度、当情報誌のさらなる内容充実のために、読者の皆様にアンケートを実施することにいたしました。

今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、お手数ですが裏面のアンケートにご回答の上、FAXにて返信いただきますよう宜しくお願い致します。

**締切**

**3月末日頃**までに  
お送りいただけると幸いです。

↓裏面のアンケートにご記入ください。



## 平成24年度全酪連会報 読者アンケート

※ 該当するものを○で囲んでください。

### Q1 あなたの性別・年齢を教えてください。

- ① 男性                      ② 女性  
① 10～20代              ② 30代              ③ 40代              ④ 50代              ⑤ 60代以上

### Q2 あなたの職業を教えてください。

- ① 酪農家                      ② 組合役職員                      ③ 官公庁/公的機関                      ④ 関係団体  
⑤ 研究機関                      ⑥ 全酪連職員                      ⑦ その他

### Q3 平成24年度全酪連会報の中で、良かった・よく読んだ内容を3つ挙げてください。

- ① 日本酪農見て歩紀(牧場紹介)                      ② 各部室便り(購買部便り等)  
③ グループ活動紹介                      ④ 嫁・婿が語る酪農の魅力  
⑤ 全国酪青女 役員に聞く！                      ⑥ 生乳生産統計、産地情報  
⑦ 原料、粗飼料情勢                      ⑧ 酪農トピックス  
⑨ その他(                      )                      ⑩ なし

### Q4 今後掲載してほしい内容がありますか？

- ① 若手後継者の特集  
② TPP関連記事  
③ 6次産業化をしている方の紹介  
④ その他(                      )

### Q5 より面白い・読んでいただく会報にするために、ご意見・ご感想をご記入をお願いします。

例) 文字が小さい、写真を多くしてほしい、○○な人物を紹介してほしい

### Q6 今後の全酪連に望むことがありましたら、ご記入をお願いします。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

▼ FAX 03-5931-8020

## 北海道 乳牛産地情報

平成25年3月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲.....強含み ▼.....やや強含み →.....横這い ⇩.....やや弱含み ↓.....弱含み

| 事務所  | 畜種           | 相場(万円) | 価格状況 | 管内状況                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|--------------|--------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 札幌管内 | 育成牛(10-12月令) | 30~35  | →    | 札幌管内の2月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で100.0%、累計で100.3%、苫小牧管内月計で96.4%、累計で98.3%の実績となっております。3月の初妊牛の動向ですが、5月分娩が中心になります。価格的には急激な高騰はないと思われますが強含みの相場で取引されるものと思われます。育成牛につきましても夏季放牧可能な育成牛は強含みで取引されるものと思われますが、全体的には横這いの価格で取引されるものと思われます。                            |
|      | 初妊牛          | 52~57  | ▼    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      | 経産牛          | 40~45  | →    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 釧路管内 | 育成牛(10-12月令) | 30~35  | →    | 根釧管内の2月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.4%、累計で101.2%、中標津管内月計で101.0%、累計で102.0%の実績となっております。3月の初妊牛の動向は、2月に引き続き高値で推移し、特にF1腹については引合いが強く、次にホル選別腹、少し値差が開いてホル腹の順です。大規模農家は引合いが強く、また資源的にも少ない状況になりつつあるため、それに伴い、裾物まで相場が引き上げられている感があります。                             |
|      | 初妊牛          | 55~60  | ▼    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      | 経産牛          | 40~48  | →    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 帯広管内 | 育成牛(10-12月令) | 29~34  | →    | 帯広管内、2月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計101.2%、累計101.0%の実績となっております。3月の初妊牛動向につきましては、夏場の受胎率低下の影響で資源が少ない傾向にある5月腹中心となっており、引き合いが強くなるものと予想されます。また、資源の流れが早いため、6月腹も早い段階から動き出し始めるものと思われます。腹の内容につきましても価格は、F1腹が高く、次いで性判別腹、ホル腹は比較的安くなっております。                             |
|      | 初妊牛          | 55~59  | ▼    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      | 経産牛          | 45~50  | →    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 道北管内 | 育成牛(10-12月令) | 30~35  | ▼    | 道北管内の2月中旬までの生乳生産量は稚内管内月計で102.8%、累計で101.8%、北見管内月計で102.7%、累計で102.3%の実績となっております。3月の初妊牛動向は、夏場の受胎の影響で資源が不足気味の5月~6月腹中心で、道内農協での需要も高まっているため、価格的にも強含みで推移するものと思われます。                                                                                       |
|      | 初妊牛          | 54~58  | ▼    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      | 経産牛          | 40~45  | →    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 道内総括 | 育成牛(10-12月令) | 30~35  | →    | 道内の2月中旬までの生乳生産量前年比は月計101.4%、累計で101.5%と1月の寒さの影響から回復してきました。3月の初妊牛動向は5月腹中心ですが、昨夏の暑さの影響で資源が極端に少ないため、6月腹も動き、価格的にも強含みでの推移が予想されます。特にF1腹については需要が高く、価格も堅調に推移するものと思われます。それに比べホル腹については、需要が少ない状況は依然続いています。年度末に向けて、荷動きが激しい時期ですので、購買の際は早めにご連絡いただきますようお願いいたします。 |
|      | 初妊牛          | 54~59  | ▼    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      | 経産牛          | 40~50  | →    |                                                                                                                                                                                                                                                  |

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

## 今月の表紙

あ〜ねむたい(-\_-)zzz

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国発表大会にて開催)に応募いただいた作品「あ〜ねむたい(-\_-)zzz」(岐阜県 中谷 昇氏撮影)です。目がトロンとなっている表情が愛らしく、何とも言えない写真ですね。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼震災から2年が経ちました。復興のシンボルとして有名になった、岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」が復元され、2年後の3月11日までは立ち姿がよみがえるとのことです。あのときの思いを忘れず、前進するための一歩となることを祈念いたします。

▼ご意見・ご要望・応援等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記



平成25年3月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN  
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 3月号 No.570

●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

子牛が生まれたよ

札苗緑小学校(北海道)3年 巽 菜々美



**今**月の入選作品は、札苗緑小学校（北海道）3年の巽 菜々美さんの「子牛が生まれたよ」です。

牛さん親子と牛舎で働く人たちを生き生きと描いた作品。夢中で乳を飲む子牛とそれを優しく見つめる母牛の表情が見事に表現されています。周りで世話をする人たちの優しい表情もいいですね。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議主催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議